

平成28年度 自己評価計画書

石川県立錦城特別支援学校

(No.1)

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考
(1) 児童生徒の主体性を引き出すための授業改善と専門性の向上を図る。	① 児童生徒の主体性を引き出すための、授業改善や学習環境の整備、教材教具の工夫を行う。	研究推進課	研究授業等において授業改善に取り組んでいるが、学習環境や教材教具をさらに工夫し、児童生徒の主体的な活動を引き出す必要がある。	【努力目標】 児童生徒が主体的に学ぶための学習環境の整備や、教材教具等の準備をする。	児童生徒の主体性を引き出す学習環境や教材教具(ICTを除く)を何点準備できたか A：5点以上 B：3点以上 C：1～2点 D：0点	C、Dの場合は改善策を検討する。	9月と2月に教員にアンケートを実施する
	② 専門性の向上を図り、児童生徒の特性や能力に応じた授業を展開する。	教務課	大学教授等を招き、専門性の向上を図っているが、授業のねらいを明確にし、保護者等にそれを説明できることが必要となる。	【満足度指標】 保護者や関係機関の方々が、本校の授業内容に満足している。	授業参観等で授業内容に満足している保護者や関係機関の割合 A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満	C、Dの場合は改善策を検討する。	授業参観日にアンケートを実施する
	③ ICT機器を活用し、児童生徒が主体的に取り組む授業を実践する。	情報支援課 チームICT	ICT機器を授業等で使用する教員は増えてきたが、まだ十分とは言えない。ICT機器を効果的に活用した授業の推進が必要である。	【努力目標】 ICT機器を活用し、児童生徒が主体的に学べる授業を行う。	児童生徒が主体的に学ぶために、ICT機器を活用した授業の回数 A：10回以上 B：6回以上 C：3回以上 D：3回未満	C、Dの場合は改善策を検討する。	9月と2月に教員にアンケートを実施する
(2) 系統的にキャリア教育を推進し、進路支援の充実を図る。	① 錦城版キャリア教育プログラムを個別の教育支援計画等に活かし、実践する。	進路支援課 各担任	キャリア教育の推進に向けて錦城版キャリア教育プログラムを教育支援計画等に関連づけて保護者にわかりやすく説明し、連携して効果的に活用する必要がある。	【努力指標】 錦城版キャリア教育プログラムを個別の教育支援計画等に活かし、保護者にもわかりやすく説明する。	錦城版キャリア教育プログラムを教育支援計画等に活かし、保護者にも十分な説明ができたか A：十分な説明ができた B：説明ができた C：十分な説明ができなかった	【達成基準】 A+Bが70%以上 70%未満は改善策を検討する。	5月、9月、2月に保護者及び教員アンケートを実施する
	② 教員自らが見本を示すことで、様々な場面であいさつができる児童生徒を育てる。	進路支援課 指導課	社会参加をめざす児童生徒にとってはあいさつは基本的なことであり、よりよいあいさつの仕方の定着を図る必要がある。	【成果指標】 個に応じた方法であいさつの仕方に向上が見られる。	あいさつの仕方に向上が見られた児童生徒の割合 A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	C、Dの場合は改善策を検討する。	9月と2月にチェックシートで確認する
	③ 保護者が希望する進路情報を提供する。	進路支援課	児童生徒の生活年齢に応じた進路情報を保護者に的確に提供する必要がある。	【満足度指標】 各部の保護者が知りたい進路情報を提供できている。	学校からの進路情報はわかりやすく参考になったかどうか A：十分参考になった B：やや参考になった C：あまり参考にならなかった D：参考にならなかった	【達成基準】 A+Bが70%以上 70%未満は改善策を検討	9月と2月に保護者アンケートを実施する

平成28年度 自己評価計画書

石川県立錦城特別支援学校

(No.2)

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考
(3) 児童生徒の健康の維持、体力の増進に努める。	① 体づくりや体育の授業を通して、児童生徒の体力向上に努める。 また、重度重複児童生徒の健康維持増進、身体機能の維持に努める。	保健課 小学部 (知的)	昨年度の取り組みにより全ての児童に体力及び身体機能の向上が見られたが、健康や身体機能の維持増進は、本校児童生徒にとって重要な課題であり、継続して取り組む必要がある。	【成果指標】 児童に体力の向上が見られる。	体力の向上が見られたとする児童の割合 A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満	C、Dの場合は改善策を検討する。	9月と2月に取組みシートで判断する
		保健課 中学部 (知的)	昨年度の取り組みにより80%の生徒に持久力の向上が見られた。体力の向上は生徒にとって重要な課題であり、継続して取り組む必要がある。	【成果指標】 生徒に体力の向上が見られる。	体力の向上が見られたとする生徒の割合 A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満	C、Dの場合は改善策を検討する。	9月と2月に取組みシートで判断する
		保健課 高等部 (知的)	昨年度の取り組みによりA類型で約60%、B類型で約40%の生徒に体力の向上が見られた。就労も控えており、支援方法の改善を図りながら体力の向上に継続して取り組む必要がある。	【成果指標】 生徒に体力の向上が見られる。	体力の向上が見られたとする生徒の割合 A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満	C、Dの場合は改善策を検討する。	9月と2月に取組みシートで判断する
		保健課 全学部 (肢体)	昨年度の取り組みでは重度重複児童生徒にとって体力の向上を図ることが難しいケースも見られた。ただ、健康の維持増進は重要な課題であり、継続して取り組む必要がある。	【努力指標】 児童生徒の健康の維持増進に向けて、新たな取り組みを入れる。	児童生徒の健康の維持増進に向けて新たに取組んだ件数の平均 A：3件以上 B：2件以上 C：1件以上 D：1件未満	C、Dの場合は改善策を検討する。	9月と2月に取組みシートで判断する
(4) 地域との交流を促進し、情報を発信することにより、社会への理解啓発を図る。	① 公共施設の清掃や作業製品の販売を通して本校の取り組みを地域に発信する。	高等部	これまでも生徒の技能の向上のため、地域での清掃・販売活動を行ってきた。継続的に取り組んで、児童生徒に対する地域の理解啓発を促進する必要がある。	【努力指標】 本校の教育活動の理解啓発のため、清掃・販売活動を通して地域の方々と接する場を増やす。	地域活動及び地域の方と接する活動の年間回数 A：20回以上 B：18回以上 C：15回以上 D：15回未満	C、Dの場合は改善策を検討する。	2月までの回数を数える
		総務課 よさこい委員会	錦城RUN舞を編成して14年間、地域の祭りや福祉作業所でよさこいを披露し、理解を深めてきたが、ここ数年参加人数が減ってきている。	【成果指標】 地域の行事に本校の児童生徒が積極的に参加し地域の理解を得る。	地域行事でよさこい披露に参加した児童生徒と教員数の合計平均 A：35人以上 B：30人以上 C：25人以上 D：25人未満	C、Dの場合は改善策を検討する。	2月までの各回ごとの参加人数を数える
		情報支援課 各学部	ホームページの更新は適宜行っているが、各部で更新頻度に差があったり、更新が遅れたりすることがある。児童生徒の活動を速やかに発信し、本校教育への理解啓発をより一層図る必要がある。	【努力指標】 こまめにホームページを更新し、児童生徒の活動の様子を保護者や地域に発信する。	各学部が一年間に行ったホームページの更新の回数 A：40回以上 B：30回以上 C：20回以上 D：20回未満	C、Dの場合は改善策を検討する。	2月までの各部の更新回数を数える